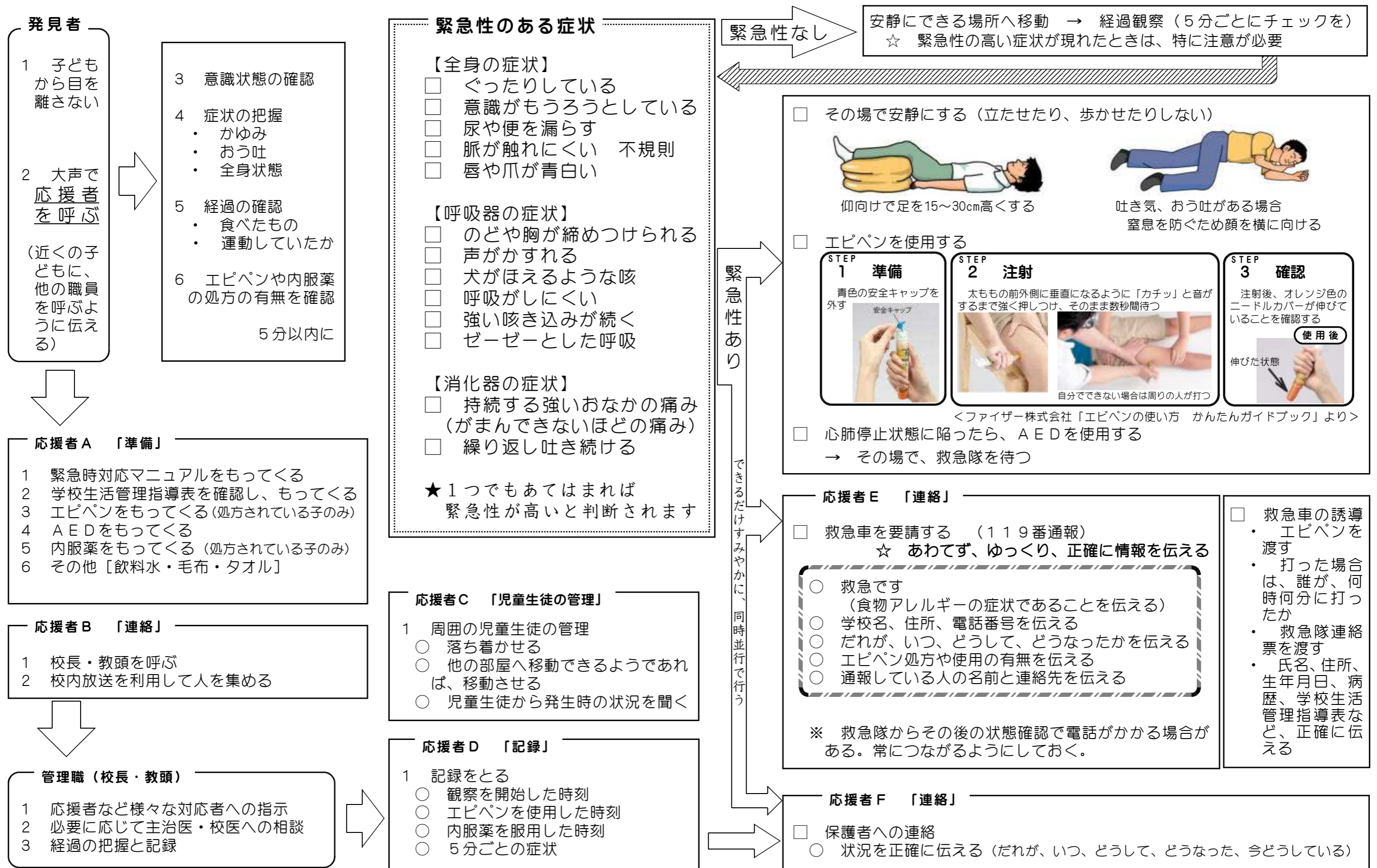


# 食物アレルギーによる症状が起きたときの対応

ここまでを **5分以内**に

(判断が遅くなるほど危険性が高まる)



### 緊急性なし

安静にできる場所へ移動 → 経過観察(5分ごとにチェックを)

☆ 緊急性の高い症状が現れたときは、特に注意が必要

その場で安静にする(立たせたり、歩かせたりしない)



仰向けで足を15~30cm高くする



吐き気、おう吐がある場合  
窒息を防ぐため顔を横に向ける

エピペンを使用する

STEP 1 準備

青色の安全キャップを外す



STEP 2 注射

太ももの前外側に垂直になるように「カチッ」と音がするまで強く押しつけ、そのまま数秒間待つ



自分でできない場合は周りの人が打つ

STEP 3 確認

注射後、オレンジ色のニードルカバーが伸びていることを確認する

使用後



伸びた状態

<ファイザー株式会社「エピペンの使い方 かんたんガイドブック」より>

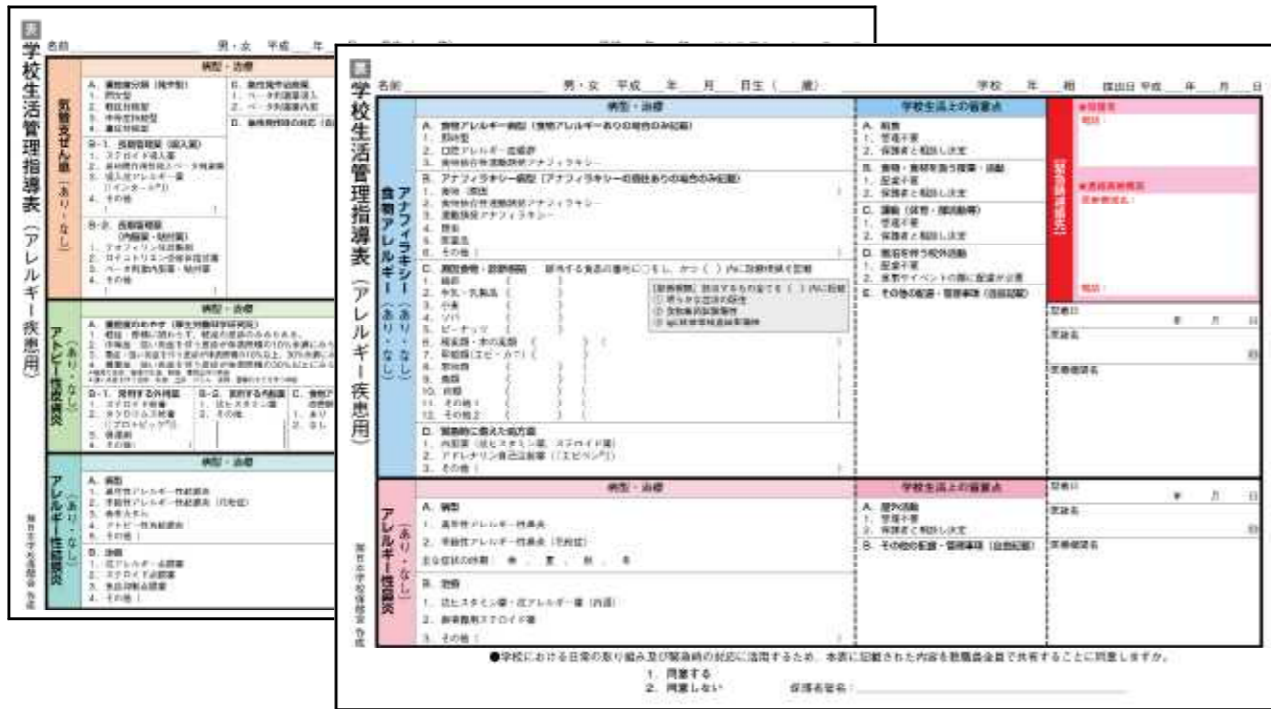
心肺停止状態に陥ったら、AEDを使用する

→ その場で、救急隊を待つ

できるだけすみやかに、同時並行で行う

# 学校生活管理指導表等 について

アレルギー疾患の児童生徒への対応は、個々の児童生徒について症状等の特徴を正しく把握することが前提となります。その手段の1つとして、「学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）」があります。



※ 学校のアレルギー疾患に対応する取り組みガイドライン (財団法人 日本学校保健会) 学校生活管理指導表の項目の色分けにあわせて、掲載ページが色分けされています。

## 救急隊との連絡

救急車を要請したときには、「救急隊連絡票」を必ず救急隊に渡しましょう。

## エピペンを使用したときの報告

学校管理下でエピペンを使用した場合は、次の報告書を提出する必要があります。

(速報 様式8)

(報告書 様式10)

小牧市の教職員のための

# 食物アレルギー緊急時対応マニュアル

小牧市教育委員会

## 食物アレルギーの症状が出やすい場面

- 学校給食
  - ・ アレルゲンを誤って口にしてしまうのはもちろんですが、準備中に、食材に触れることにも注意が必要です。
- 食物・食材を扱う活動（調理実習など）
  - ・ 小麦粘土を使った活動、牛乳パック・プリンカップなどのリサイクル体験、豆まきなどの活動を行う場合は、注意が必要です。
- 宿泊を伴う活動
  - ・ 修学旅行や野外活動など、普段の生活では考えられないことが起きる可能性は高くなります。特に、食事の内容や提供可能なアレルギー対応食を確認する必要があります。
- 食後の運動
  - ・ 運動によって、食物アレルギーが誘発されます。昼休みや体育の授業などに発症するケースがあります。1時間目や5時間目の体育では注意が必要です。

## 食物によるアレルギーの症状

### <全身の症状>

- 意識がなくなる
- 元気がなくなる
- ぐったりする

### <呼吸器の症状>

- のどが締めつけられる感じ
- 声がかすれる
- 呼吸がしづらい
- ゼーゼー、ヒューヒュー
- 咳込み
- 犬がほえるような咳

### <消化器の症状>

- 吐き気
- おう吐
- 腹痛
- 下痢

### <皮膚の症状>

- 皮膚の赤み
- じんましん
- かゆみ
- むくみ

### <目の症状>

- 白目が赤くなる
- 白目がブヨブヨになる
- 目がかゆくになる
- まぶたの腫れ
- 涙が止まらない

### <鼻の症状>

- くしゃみ
- 鼻水
- 鼻づまり

### <口やのどの症状>

- 口の中が変な感じ
- 口の中が腫れる
- くちびるが腫れる
- 舌の変な感じ
- 舌が腫れる
- のどのかゆみ
- イガイガ感

☆ 普段から、全教職員での講習・訓練を積んでおくことが大切です ☆